

2017年10月1日

監査役会通信(No.18)

社外監査役 堀口基次

学ぶ姿勢

過日あるセミナーに参加したとき、たいへん興味のあるお話をお聞きすることができました。

野球選手をスカウトするとき、最も優れた選手たちをドラフト指名するのですが、指名をするときだけの実績を残したかということだけではなく、多くの場合、潜在力が決め手になるというのです。

潜在力(Potential)とはさらに上昇する可能性のある能力、表面に現れていない隠された、秘められた成長性の可能性を意味しています。

そこでスカウトの方たちは「今この選手はどういう点が優れているか」プラス今後3～5年後に何ができるかという点について注視し、時間をかけて選手を探し回っているとのことでした。

そして、スカウトされた方がチームの一員になった後、彼らが潜在力を選手時代に完全に引き出すことができるのは、彼らがいかに監督・コーチの指導を謙虚に聞き、飲み込めるかにかかっていると言える。

つまり、選手がどれだけ成長するかは、彼らの学習能力、すなわち学ぶ姿勢にかかっているということを強調していました。

高慢になり、他人から学ぶ姿勢を怠るようになると、潜在力は完全に開花しないまま終わってしまうことになるでしょう。開花させることができるかどうかは、その人の学び続ける謙遜な姿勢にかかっています。

専門能力や個性を伸ばしながら互いに刺激し合い、成果につながるようなチームづくりができればと願っています。そして、専門能力を高め、個性を育てるには社外で学び、切磋琢磨する機会を自ら求めることも必要ではないでしょうか。

今、監査役としての業務を仰せつかり、少しでも監査品質の向上に向けた勉強をしなければとの思いで、日本監査役協会主催の各種研修会、監査役同士の交流会に参加をさせていただいています。

この監査役の研修会には幅広い層の方が参加されているようですが、高齢の方が若い方と意見交換をしているときに若い方が話されていることを高齢の方が必死でメモをとっている姿を良く見かけます。

こういう姿を見て何歳になっても学ぶ気持ちを怠ることなく、謙虚に歩いていくことができるよう増し加えられることを願っています。